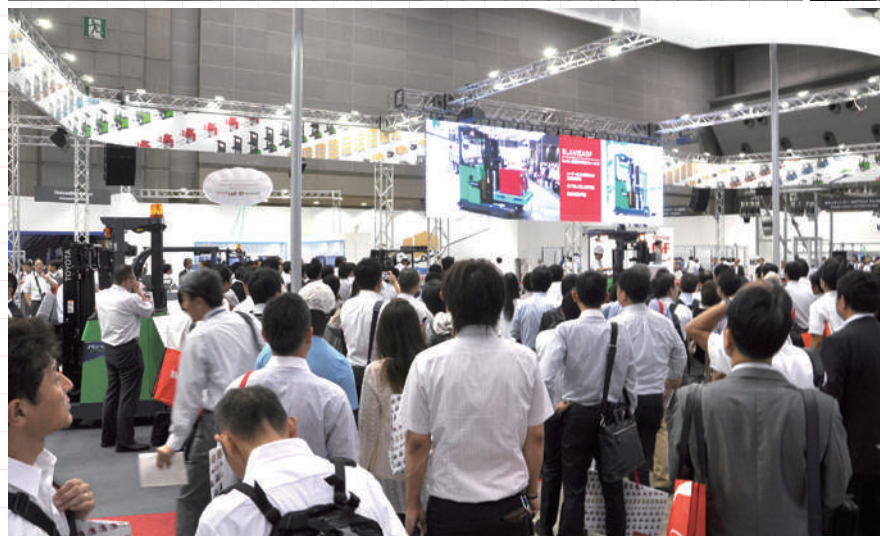


最新物流機器・システム・サービスの ソフトとハードが一堂に結集 ロジスティクスを創出する 『国際物流総合展2018』



物流の課題解決に向けた新たなイノベーションを提供するアジア最大級のロジスティクス展示会「国際物流総合展2018 / LOGIS-TECH TOKYO 2018」。会期中の来場登録者は前回開催より約1万人に多い74,520人となった。出展者と展示製品の検索ができる来場者にとって便利な検索コーナーも用意されていた（右下）

アジア最大級の物流・ロジスティクス展示会「国際物流総合展2018 / LOGIS-TECH TOKYO 2018」が2018年9月11日(火)から14日(金)までの4日間、東京ビッグサイト(東京国際展示場)の東1～6および8ホールを利用し開催された。

今回で13回目の開催となる国際物流総合展は、最新の物流システム機器や情報システム、サービスなど、物流関連のハードとソフトが集結し、国内外のロジスティクス関係者が一堂に会する総合展示会である。今回のメインテーマは、“ロジスティクスの今を知り未来に触れる”で、交易振興・技術の向上・情報の提供・人的交流等を促進することを目的にしている。会場では、活発な情報交流・ビジネス交流が行われ、課題解決に向けた新たなイノベーションを導き出す場となっていた。

主催は、(一社)日本産業機械工業会、(一社)日本産業車両協会、(一社)日本パレット協会、(一社)日本運搬車両機器協会、(一社)日本物流システム機器協会、(公社)日本ロジスティクスシステム協会、(一社)日本能率協会の物流系7団体で、会期中4日間の来場登録者は74,520人と前回(2016年)展の64,071人から約1万人が増加した。なお、来場登録者数は、来場者として登録された人数で、会期中の「1登録につき1回」のみのカウントとなる。

経営を効率化し、企業価値の向上と発展を目指し、顧客満足 of 充足や、過剰在庫の削減、供給コストの適正化等を実現するためには、サプライチェーンを全体最適の視点で捉えたマネジメントが不可欠である。その中で、サプライチェーンの各プレーヤーを有機的に結ぶ機能を担うロジスティクスの役割はますます重要なものとなっている。そのような、わが国を取り巻く経営環境が注目された結果、来場者の増加につながったものとみられる。

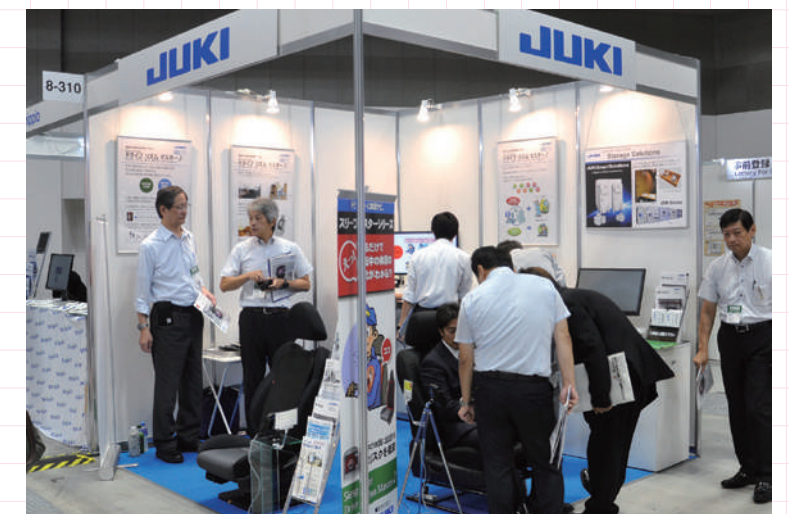
本号では、国際物流総合展でトラック輸送に関連する出展企業を中心に紹介する。なお、今回は2021年1月26日～29日に東京ビッグサイトでの開催が予定されている。



ドライバーファーストの「web 配車システム」も出展されていた。配車担当者が配車情報を登録する際に、空車両や空乗務員が表示され、乗務中の乗務員や車両を割り当ててしまう配車ミスを減らすことができると、ありそうでなかった配車作業システムである



スマホ専用でトラック業界最大規模のドライバー求人件数を誇る、ドライバー支持率1位の求人サイトの「フルル」のブース。就職や転職を考えているトラックドライバーに低コストでアプローチできる。ドライバー不足を解決する方法のひとつでもある



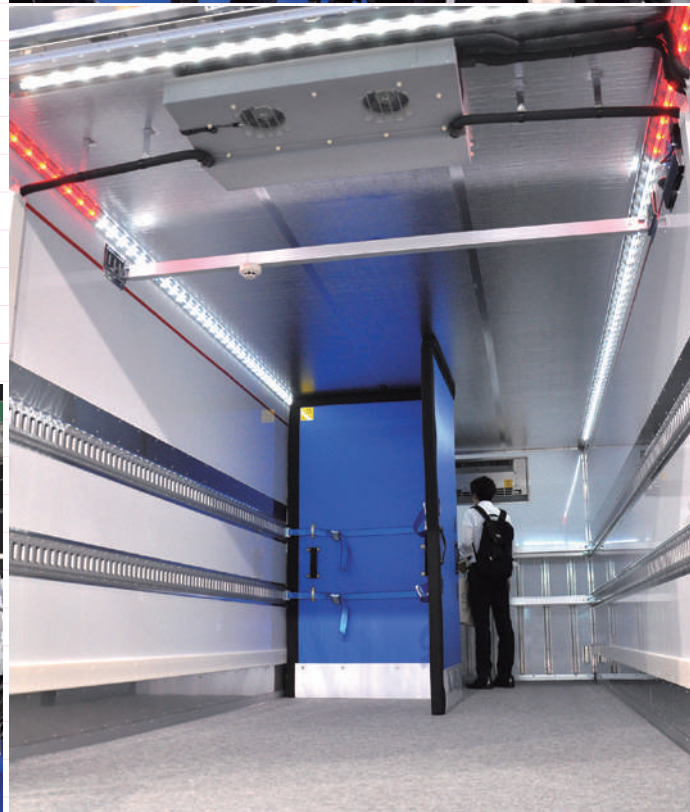
運輸・交通システムEXPOにも毎回出展して好評を得ている「スリープバスター」。マット内蔵のセンサーが体表脈波を捉え、自律神経の状態から運転中の体調のモニタリングを行い、集中力の低下や入眠予兆・体調の急変等をリアルタイムで判定し運転手に知らせる

トプレック株式会社 ■出展テーマ：コールドチェーンのネクストステージ■



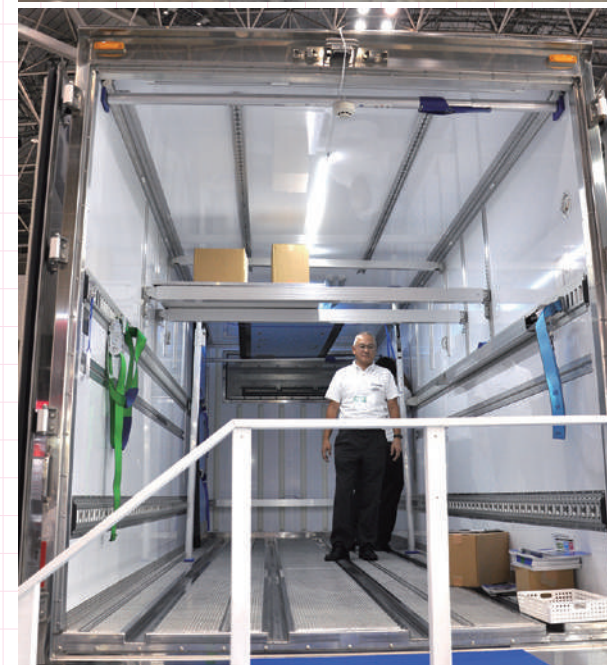
“コールドチェーンのネクストステージ”をテーマにした東プレ・トプレックの展示ブース。2台の新型冷凍車が展示されていた

東プレ・トプレックは、多様化するニーズに応えるため、高い専門知識と豊富な経験を活かしたコールドチェーンのトータルコーディネーターを目指している。ブースでは、「GBS 冷却／加温機能付き中型冷凍車」と「昇降式パレット搬送装置付き大型冷凍車」を展示した。定温物流は、年間を通して低温域から常温域での温度管理の要求も高まっており、加温機能搭載の冷凍車需要が増加している。同社は、従来のエンジン排熱を利用したラジエーター温水加温方式ではなく、冷媒ヒートポンプ加温技術を採用した「ヒートポンプ加温機能付き冷凍装置」を開発。展示された「GBS 冷却／加温機能付き中型冷凍車」は、管理温度の異なる商品を混載輸送できる「ヒートポンプ加温機能付き2エバ冷凍装置」に「GBS（ジェネレーター・バッテリー・システム）」を組み合わせ、納品停車中のバッテリー電力での冷却・加温運転を可能している。また、「昇降式パレット荷役機能付き大型冷凍車」は、エア式床上パレット搬送装置を備え、縦横のローラーコンベアが独立して昇降することで、パレットの積み降ろしを従来の半分の労力と時間で可能にする大型冷凍車。物流業界の労働力不足は今後の重要な社会問題であり、高齢者や女性の雇用といった労働力確保の取り組みと、「働き方改革」へと繋がる効率的荷役も視野に入れて開発されている。



冷媒ヒートポンプ加温技術を採用した「GBS 冷却／加温機能付き中型冷凍車」（右）。品温の異なる商品を混載輸送できる2エバ冷凍装置搭載の先進的な車両だ

オールセーフ株式会社 ■出展テーマ：庫内スペースの有効活用で輸送合理化をサポート■



オールセーフの前身はアンクラジャパン(株)で、東京トラックショーにも出展していた安全輸送機器のトップメーカーである。130年余りの社歴の中で、同社のコンセプトである“固定技術を通じて安全と安心を社会に提供すること”に前向きに取り組んでいる企業である。物流での固定技術を通じて「安全」を提供することを目的に、陸、海、空での物流の品質向上を求め、これまでに様々なハードウェアの開発を行うことで、物流の安全に寄与している。貨物固定、荷崩れ防止、輸送機器の設計から製造までトラック輸送の合理化をサポートする各種製品を展示。今回は庫内のデッドスペースを有効活用できる新製品も、実際のバンボートトラックをブース内に設置し実演展示していた。今回展示した製品は、ラッシングベルト、カゴ車輸送向けラッシングシステム、デッキングビーム／バー・固定具類、ハンガー車システム、トラックレール／接着レール、アルミ水抜き穴レール、クロスレール／ZAMレール、冷凍・冷蔵車用間仕切り(クールマスター／クールボーイ)、エアラインレール、ダブルデッキシステム、車イス固定システム、ベルト式電動ウインチ／スロープ、リトラクター／ACWシステム、トラック庫内搬送システム、AJ スケーターなどとなった。中でも冷凍・冷蔵車用間仕切り「クールマスター」は、軽量・高気密・高断熱性により、簡単に庫内の異温度管理を可能にする間仕切りパネルで、新車装着率は業界でトップクラスだとのこと。またこのたび、同社は東証一部上場企業である芦森工業(株)と資本業務提携を行っている。これにより、芦森工業の繊維技術とオールセーフの金属加工技術が一体となり、さらなる製品開発へと発展するものと期待されている。



実演展示の新製品(上)とラッシングベルト



ウレタンと強化プラスチックの3層構造で温度制御に優れた性能を発揮する「クールマスター」(左)と一般的な「クールボーイ」(右)

ビーワイディージャパン株式会社 ■出展テーマ：新エネルギー・フォークリフト■



中国の大手企業であるBYD社は、エンジン車でもなく、鉛蓄電池搭載型電動フォークリフトでもない、次世代のフォークリフトを出展。有害な排出ガスゼロで環境に優しい車両となっている。世界初となる「100%リン酸鉄リチウムイオン電池」を搭載し、急速充電が可能で、補水液補充無し、高稼働時間、高安全性、エンジン車並みのパワーなど、多くのメリットをもつフォークリフトである。BYD (Build Your Dream / 中国名：比亚迪) は1995年に設立し、社員数18万人を抱える世界有数の巨大電池メーカーで、2016年の売上高は、1002億0770万円(約1兆6195億円)にも上る。主な事業は、エネルギー(家庭用蓄電、ソーラーパネル、LED関連)、自動車(電気自動車等)、IT(タブレット端末、ノートPC等のOEM)で、2016年にはEV販売台数で世界一になっている。



BYDの電動フォークリフトに搭載されている高性能リチウムイオン電池

コマツ ■出展テーマ：コマツから次世代への提案■

コマツバッテリーフォークリフト「FEシリーズ」に走行性能を向上させたハイスペック車が追加された。FEシリーズは「急速充電電機能」「イーザーメンテナンスバッテリー」と車両を遠隔管理できる「KOMTRAX」を搭載し、防水規格「IPx4」をクリアしたフォークリフトである。ブースには、位置情報、稼働状況、燃料消費量などユーザーに提供できるKOMTRAXを体験できるコーナーも用意されていた。新型バッテリーフォークリフトFEシリーズ・ハイスペック車の「FE25H-1」は、2.5tの車両に3t用のモー

ターを搭載することで登坂力・最高速度・駆動力を大幅向上させ、広い現場や坂道の多い現場、バケットでの押し込み作業などでエンジン車と遜色無い性能を発揮する。2017年11月に発売された油圧駆動エンジンフォークリフト「FH100～160-1」は、建機の油圧技術「HST」を導入した画期的な車両として展示された他、次世代キャンピングも出展されていた。



トヨタL&F 豊田自動織機 ■出展テーマ：この国の物流を、あたらしく、うつくしく■



会場でひととき大きなブースを構えていたのがトヨタL&Fである。ブースでは、トヨタL&Fのグローバル展開や、他業種への挑戦、未来の物流への取り組みなど、これからもユーザーのパートナーとしてあり続けるために進化する、新しいトヨタL&Fの物流ソリューションが展示されていた。目玉は広いスペースを利用したデモンストラレーションで、STAGE1「新たなトヨタL&F」…グローバルや他業種に広がる物流ソリューションの紹介、STAGE2「お客様の物流パートナーであり続けるために」…トヨタL&Fが考える安全・環境、そしてIoT/AI・自動運転、となっていた。CO₂や環境負荷物質を排出しない優れた環境性能を持つ水素を燃料に稼働するFCフォークリフトも展示された。

株式会社 コーレンス ■出展テーマ：On-Site Decision 欲しい搬送車、作れます■

ニーズに応じて、木材・金属等、重量物・長尺物など幅広い用途に使用できる最新鋭のドイツHUBTEX社製電動式マルチダイレクションナル・カウンターバランス・フォークリフト「FLUX30」を日本国内で初出展した。この車両は、定格荷重3.0トン～4.0トンクラスの小型電動式標準モデルで、最新のHXステアリング機能を標準装備し、重さ4トン以下の長尺物、パレットなどを限られたスペースで搬送することを可能にしている。搭載されたHXステアリングシステムは、マルチダイレクションステアリングシステムの発展型システムで、直行↔横行へステアリングを切り替える場合、これまでは一度停止する必要があったが、HXステアリングシステムは停止することなくその切替が可能である。油圧ダンパー内蔵シャシーにより車体を安定する機能も採用されている。



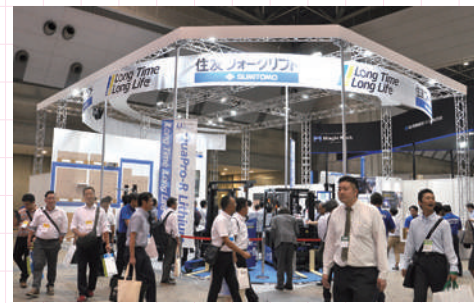
三菱ロジスネクスト株式会社 ■出展テーマ：三菱ロジスネクスト、未来へ■



“現在取り組むべき無人化・省人化の課題と、作業現場における安全への対策”、“これからの物流機器のあるべき姿”など、ハードとソフトの両面からニーズに応える製品とサービスを紹介していた。ブース内で実演展示されていた「PLATTER Auto(プラッターオート)」は、走行ルートをレーザースキャナで反射板を検出し自分の位置を把握して走行する床面への磁気誘導埋設工事の必要がない「レーザ誘導方式」を採用。導入時に床面工事が不要となるため、床工事ができない物流現場での導入も可能にしている。

住友ナコ フォークリフト販売株式会社 ■出展テーマ：より長く、より確実に、より安全に■

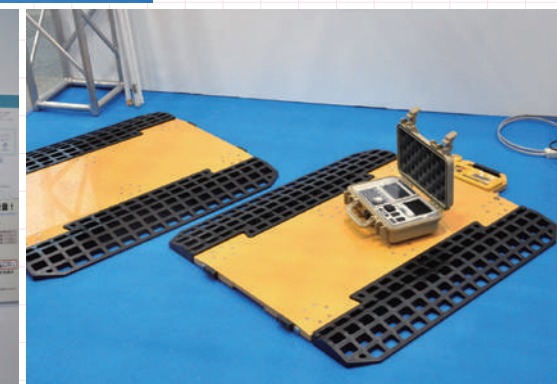
物流現場の頼れるパートナーとして、より長く、より確実に、より安全に使用できるフォークリフトを多くの物流現場に届る目的で開発されたバッテリーフォークリフト「QuaPro-B」。徹底した省エネにより、業界トップクラスの標準モードで8.5時間、ECOモードで最大9.5時間の稼働を実現。旋回速度制御システムSTCを新搭載し、旋回時の荷崩れを減少させている。また、物流現場のピッキング、搬送作業の新スタンダードとして、パレットピッキングからケースピッキングへと荷物の小口化が進む物流業界に対応する「Pickioシリーズ」は、運転席の付いたコンパクト仕様的小型搬送機となっている。



株式会社 守随本店 ■出展テーマ：進化し続ける移動式はかり■



「はかりは固定式から移動式へ」をコンセプトに、物流業界のスピード化・無線化・コストダウンに貢献できる3D計量機・無線計量機などを展示。同社も東京トラックショーに出展していた。トラックに関連する製品としては、パネル展示されていた高精度車載計量機「ロッキーシリーズ」がある。後付けできる同社ならではの車載計量機で、荷台とシャシの間にロードセルを挟み込むことにより、荷台そのものが“はかり”となる画期的な装置だ。はかりとして使用しない時には衝撃緩和装置になる「ロッキーI」、計量回数の多いごみ収集車などに適した「ロッキーII」、カゴバレット積載時に簡単計量できるゲート付バン型車用の「ロッキーIV」などニーズに応じた機種がシリーズ化されている。その他、進化した「無線式ポータブルトラックスケール」も注目の製品のひとつである。



CBcloud 株式会社 ■出展テーマ：荷主とドライバーを直接結ぶ■



ロジスティクス×テクノロジーと題した(株)CREグループのブースで紹介されていたPickGo。配送するドライバーと直接つながることで、迅速・確実・柔軟な対応が可能で、面倒な電話連絡などの必要がない軽貨物の緊急便である。登録ドライバーは全国5,000名以上。

株式会社 MUJIN ■出展テーマ：次世代型物流を担う最新ロボットピッキング■



知能化されたロボットによる最先端のピッキングソリューションを出展。トラックイメージのコンテナからの荷下ろし作業(デバンニング)の実演展示を行っていた。デバンニングは、その過酷な労働環境から永年自動化の課題として取り組まれていた。自動化が最も難しいデバンニング作業を知能化されたロボットにより世界で初めて解決させている。

ハラックス株式会社

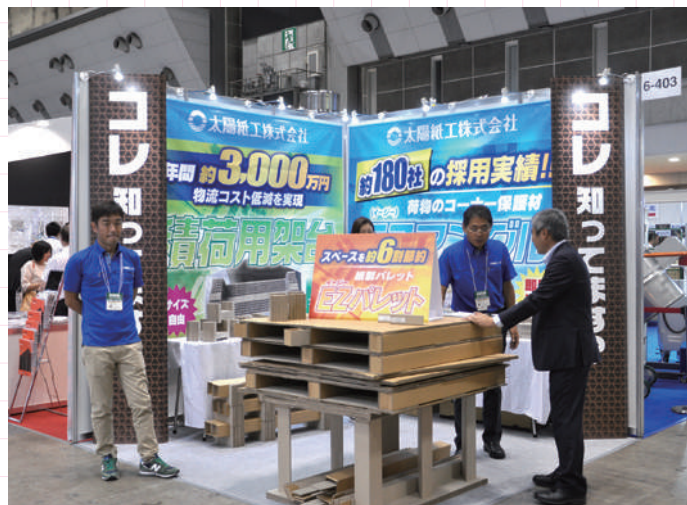
■出展テーマ：アルミニウム製品の総合メーカー■



トラックのアオリにかけて使う多目的階段「マルチステップ」は、ステップの奥行が約16cmで安定感があり、荷物を持ったままの昇り降りがしやすい。アオリに引っ掛ける簡単セットの「トラックステップ」はステップ奥行が22.5cm、幅40cmで両足で立てる安心設計だ。また、ゴム製滑り止め付き移動式階段「ネオステップ」も取り扱っている。

太陽紙工株式会社

■出展テーマ：コレ知ってます？■



産業用資材、物流資材、商品容器の製造・販売を行っている岐阜県の実業会社である。イーザーパレットは、物流を梱包から考えた紙パレット。手狭な倉庫で場所をとらず、信頼の強度でしっかり固定できる。耐圧は3トンで、何度も使用可能でその後は古紙リサイクルできる環境も考えたパレットである。コーナープロテクターは、人を守り、荷物を保護する決定版として考えられた耐水仕様製品である。据え付けはただ車輪の下に敷くだけで、積み下ろし中の荷物の固定、輸送中の荷物の固定、倉庫内の台車の固定などに対応している。

横浜ゴム株式会社

■出展テーマ：横浜ゴムとお付き合いしてみませんか？■



ユーザーの悩みや課題についてのソリューションを提案し、物流の足をサポートする横浜ゴムは、フォークリフト用タイヤ、トラック用タイヤ、リトレッドタイヤ、情報サービスなど、豊富な製品バリエーションと様々なサービスを紹介。大型トラック用リトレッドタイヤのコーナーには、リトレッドタイヤの製造工程を実物展示で分かりやすく説明したほか、新品タイヤとの比較展示も行われ、リトレッドタイヤの優秀性をPRしていた。



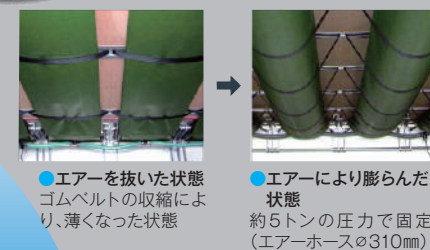
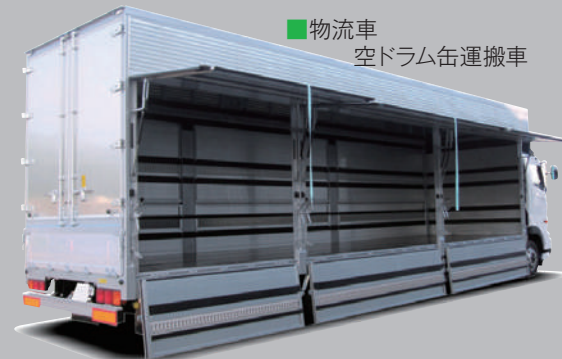
物流を創造する オオシマからの提案

■物流車 水平脱着ボデー



永年培った車体技術で
不可能を可能にします

■物流車 空ドラム缶運搬車



●エアを抜いた状態
ゴムベルトの収縮により、薄くなった状態

●エアにより膨らんだ状態
約5トンの圧力で固定
(エアホースφ310mm)



側面開口部 2,960mm
(室内高2,770mm)

■物流車 電動式リフトウイング車

■移動販売店舗車 3トン車タイプ(拡幅式)



■移動理美容車 「イノベーション」3トン車タイプ(拡幅式13.2㎡)



オオシマ自工株式会社

〒742-0023 山口県柳井市南浜4丁目3-7
TEL 0820-23-3800 FAX 0820-23-3801

<http://truck.oshimajiko.co.jp/>